

下川町で伐採・造林一貫システムの 現地検討会と講演会を開催

日時：平成 27 年 7 月 3 日（金）13:00～17:00

会場：下川町町有林（現地検討会）、下川町総合福祉センター（講演会）

主催：森林総合研究所北海道支所、下川町

内容：

北海道支所は、下川町および下川町ふるさと開発振興公社と共同で、農林水産省の研究開発事業「先進機械を活用した伐採・造林一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発（H25～27）」を行っています。本事業は、トドマツ、カラマツ等の道産樹種の素材生産と、再造林とを一貫したシステムとして作り上げ、低コストで効率の良い北海道型林業を目指すものです。

今年は3年間続く本事業の最終年に当たります。そこで昨年 1 月と9月に引き続き、事業の意義と進捗状況をお知らせするための現地検討会と講演会を開催しました。研究機関、行政機関、事業体、指導林家の方など、あわせて約 100 名もの方にご参加頂きました。

現地検討会では、本事業の目標とする、「ハーベスタによるトドマツ伐採→フォワーダによる集材→クラッシャ地拵」という一連のシステムについて、実際の機械を用いたデモンストレーションを行いました。クラッシャ（破碎機）を林業に用いるのは国内では珍しく、下層植生に対する効果など、活発な質問がありました。

講演会では、北海道大学大学院農学研究科 渋谷正人准教授が「これからの林業の考え方」と題して、現状を踏まえつつ今後の持続可能な施業方法や林業経営に関してお話しされ、個々人の知識や技術のスキルアップが重要であることを強調されました。最後に、本事業の内容に関する報告、質疑応答や意見交換が行われ、今後の事業の進捗にとって有益な催しとなりました。

